

学校関係者評価報告について

学校法人豊野学園
豊野高等専修学校
校長 市川文夫

学校法人豊野学園豊野高等専修学校「専門課程」においては、「専修学校における学校評価ガイドライン」にそって、「学校法人豊野学園 豊野高等専修学校 専門課程 令和4年度自己評価」の結果をもとに、「学校関係者評価」を実施しました。「学校関係者評価」を行うにあたっては、「学校関係者評価委員会規則」に定める学校関係者評価委員会を設置し、「企業及び外部関係者」を選任し、委員に対しては「令和4年度自己評価報告書」の説明、教育活動、学校運営等に係わる課題を共有し、今後の方向性に対する改善方策等の意見、助言をいただきました。

その報告については、広く公表していくとともに、これからの学校運営のための重点目標等の策定に反映させ、具体的な取り組みをすすめていく所存です。

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none">・教育理念「一校一家」の教育理念は実行されているか。・専修学校が社会における役割を認識しニーズに応える学校づくり努めているか。・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。・専門教科に重点を置き、併せて一般教科・特別教育活動を通して専門業界の即戦力となる人材の育成に努めているか。
〈コメント〉	<p>ホームページの刷新を現在行っており、SNS を活用した情報発信への姿勢や報道メディアへの積極的アプローチは本校の理念具現化において、有効な成果につながるものと判断できる。その上で、豊野学園が抱く「豊野高等専修学校 専門課程の価値、どの様な学生を育てるのかを情報発信しようとしている」姿勢は評価できる。今後のさらに充実した取り組みに期待したい。次年度への継続した課題でもある。</p> <p>「専修学校の専門課程」から「職業実践専門課程」への高度な人材育成に変革を進めようとしている本校の姿勢は時代の要請に適切に対応しながら明確に確立しようとしており、評価できる。教育目標や育成人材の確実な実現の手立てとして、2年制をもとに、より長期な履修制度の導入も検討する必要があるのではないか。</p>

<p>(2) 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌・役割の確認と責任の遂行はなされているか。 ・事業計画を綿密に立て、共通理解で運営されているか。 ・運営組織や意思決定機能は職員朝会・職員会議等で意見交換され、納得して十分機能しているか。 ・人事や給与に関する規定等は整備されているか。 ・業界や地域社会と密接な信頼関係が確立されているか。 ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。
<p>〈コメント〉</p> <p>毎年開催される理事会・評議員会において、「運営方針・予算編成」とともに、学校の将来的な構想や中長期構想計画に基づいて適切に刷新されていることは評価できる。事業計画を策定するにあたっては、進捗状況等も含め、実施内容の検討も行われているものと判断できる。それが、次年度の事業計画に反映されていることが理解できる。</p> <p>運営組織や意思決定機能は、学校の組織体制や業務体制における組織図等で明確化されている。教職員人事は適正に行われていると判断できる。就業規則等も整備されており、適切に運用されているものと認識している。「教務・財務等」に係わる業務分担や、決済システム及び意思決定システムも的確に整備され機能しているものと判断できる。</p> <p>コンプライアンス体制は、「危機管理マニュアル」「個人情報管理マニュアル」など体制の整備が行われていることを評価するが、毎年度の見直しを継続してほしい。ホームページや SNS を利用した情報発信により学校の情報公開は以前よりも改善されており、継続して改善を図ってほしい。</p>	
<p>(3) 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 ・学科等のカリキュラムは体系的に編成され、キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか。 ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか。 ・授業評価・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。 ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 ・人材育成目標達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。 ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか。

〈コメント〉

教育の質の確保を維持するために、「アドミッションポリシー」「ディプロマポリシー」「カリキュラムポリシー」の3つのポリシーを明確にし、学生の主体的な学びを保障しようとする方向性は評価できる。専門課程の学生であっても学習を進めるうえでの基本的な「パソコンなどの基本的技能」を確実に修得させるための教育課程を編成していることは評価できる。

業界が求める人材像を把握するために、中小企業同友会等との連携をとり、学校の様子を参観してもらったり、情報交換を行っていることは今後も継続してほしい。そのことにより、より充実した就職支援につながる取り組みを求めたい。

学校と関連する分野の企業や業界団体との連携により、シラバス及びカリキュラムは適切に作成、見直しがされているものと評価できるが、継続して取り組みを行ってほしい。

卒業生の中から起業する学生が生まれており、後輩にとって有意義な情報提供となっている。さらに、業界や行政との連携をすすめ、インターンシップ等の取り組みにおいてはさらなる充実をはかる必要があるものと判断する。

成績評価・単位認定の基準は、演習科目・実技科目それぞれにおいて適切に評価されており、その結果は単位認定にまで計画的に実施されており、明確にされていると評価できる。

教育能力の高い資質や実務的専門性を備えた教員の確保は学習環境を整えるための重要な要素である。そのための教員の研修「技術力向上」「指導力向上」を目的とした「校内研修」「校外研修」にも積極的に取り組んでいることは評価できる。

(4) 学修成果

- ・就職率の向上が図られているか。
- ・資格取得率の向上が図られているか。
- ・退学率の低減が図られているか。
- ・卒業生の卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。

〈コメント〉

就職支援の前段階として、学生の日常的な生活における教育相談体制をいかに充実させるかが大きな課題となるが、本校においては、教育カウンセラーの導入やケースワーカー及びベテランの教育相談員、さらには相談窓口となる教育相談コーディネーターの配置など、かなり充実した教育相談体制が確立されているものと評価できる。現状では就職率はほぼ100%であり、退学率も低い。しかし、卒業後の学生の状況について追跡調査は充実させる必要があると判断する。卒業後の動向を把握し、学生に対する教育方法の改善に活かしていくことは有効である。今後も積極的に取り組んでほしい。

就職に関しては、ハローワークでの実務経験の長い就職支援専門員が配置されており、

<p>一般就労はもとより、就労移行支援等も必要とする学生に対する体制作りに取り組んでいることは評価に値する。</p>	
<p>(5) 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する指導・支援は行われているか。 ・学生相談に関する体制は整備されているか。 ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 ・課外活動に対する支援体制は整備されているか。 ・保護者会と適切に連携しているか。
<p>〈コメント〉</p> <p>「4. 教育成果」でも触れたが、「教育相談体制の充実」は本校の強みの一つと認識している。臨床心理士資格をもつ「カウンセラー」の位置づけや、「教育相談コーディネーター」及び「ベテランの教育相談員」「専任の就職相談員」等の配置は有効に機能していると判断できる。事前での学生の状況把握や教員間での情報共有など今後も丁寧に対応していく必要があると判断できる。保護者の相談にもきめ細やかに対応できていることは評価したい。</p> <p>国も力を入れている「リカレント教育」「リスキリング」に対応した「社会人の学びの場の提供」は今後さらに必要性が増すものと判断できる。本校が提供できる「開設講座」について十分検討し今後も前向きに取り組んでほしい。</p>	
<p>(6) 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるときよう整備されているか。 ・就職等の進路に関する必要な資料等の整備はなされているか。 ・企業実習・インターンシップ等について十分な教育体制を整備しているか。
<p>〈コメント〉</p> <p>専門棟の「大規模リフォーム」がすすめられている。「情報デザインコース」「服飾デザインコース」それぞれにおける学びやすい環境の整備がなされているものと評価できる。今後は多様な学びのニーズに応えるべき「専門性の高い教員の配置」に力を入れていく必要がある。連携している多様な企業におけるインターンシップ等、企業の持つ環境を活かした実習や校外研修の場として有効利用が図られるよう努力してほしい。</p> <p>防災に対する体制整備は、高等課程と連携した「危機管理マニュアル」をもとに、長野市消防局豊野分署指導による消防計画に基づいた年間2回の火災訓練、地震に対する訓練が実施されている。非常時の避難誘導など継続的に実施をして被害防止に万全を尽くしてほしい。</p>	
<p>(7) 学生の受入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校・高等専修学校等接続する機関に対する情報提供の取り組みが積極的に行われているか。 ・学生募集活動は適正に行われているか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報や教育成果は正しく伝えられているか。 ・ 学納金は妥当なものとなっているか。
<p>〈コメント〉</p> <p>他の専門学校にない、本校特有の高等課程からの入学生の募集は、高等課程3年間、専門課程2年間を利用した5年間での社会人としての人材育成のためのシステムとして大いに評価できる。</p> <p>令和2年度から設定された「ディプロマポリシー」「アドミッションポリシー」「カリキュラムポリシー」を公開しており、高校生の志望動機や学習意欲の向上に役立つものとして評価する。「AO入試」も実施しており、志望する生徒の意欲や目的を事前に把握するために有効である。オープンキャンパスの実施、授業体験、入学前教育相談などを行い、進学 mismatches を防ぐなど適正な学生募集が行われていると認められる。</p> <p>ホームページ等における学校案内や学生募集の内容等を発信しているが、情報の質・量については改善の余地があると評価した。今後の充実を一層はかってほしい。情報デザインコースは令和3年度に設置されたものであり、教育成果については今後も見守って行きたい。</p>	
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか。 ・ 予算・収支計画は適正かつ妥当なものとなっているか。 ・ 財務に関して会計監査が適正に行われているか。 ・ 財務情報公開の体制整備はできているか。
<p>〈コメント〉</p> <p>毎年度2回開催される「理事会」「評議員会」において監査員による監査を受けている。法人役員会において監査報告が協議され客観性に基づいているとともに、「経常収支差額」は常にプラスであり財務基盤は安定していると評価できる。また、規程に従い財務情報の開示も行っており評価できる。専門課程学生の在籍数の増加をはかることがさらなる財務基盤の安定に必要な対策といえる。現在2年制の専門課程の運営を行っているが内容の充実も考慮し、3年制のコースの設定や専科の設定も考慮していく必要があるのではないかと。今後の検討課題としてほしい。</p>	
(9) 法令の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。 ・ 個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか。 ・ 情報セキュリティ規定、自己評価結果を公開しているか。また、学校関係者評価を実施し評価結果を公開しているか。

<p>〈コメント〉</p> <p>長野県の私学所轄部署「県民文化部 県民の学び支援課」の指導を得ながら、校長・副校長(2名)・理事長による戦略会議において適正な運営がなされていると認める。必要に応じて、理事会の承認を得ていることも評価できる。</p> <p>個人情報の管理については、「豊野学園 個人情報保護方針」を遵守して行っていると認められる。自己評価結果、関係者評価結果は公開されており、学校のホームページ上で閲覧することができる点は評価に値する。</p>	
<p>(10) 社会貢献・地域貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生会のボランティア活動を奨励・支援しているか。 ・地域に対する公開講座・教育訓練・リカレント教育等積極的に実施しているか。
<p>〈コメント〉</p> <p>2019年の台風災害を契機として、ボランティア活動には積極的に参加しているとの報告を受けたことは評価に値する。</p> <p>また、地域貢献として「各種公開講座」を積極的に開催していることは評価できる。</p>	
<p>(11) 国際交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・留学生の受け入れを積極的に進めようとしているか。 ・海外とのリモート等による情報発信・情報交換を行っているか。 ・留学生の受け入れ情報を発信しているか。
<p>〈コメント〉</p> <p>留学生の受け入れや、学生の海外留学等において、その方針は示されているが現状では実施されてはいない。今後、現在つながりのあるモンゴルの高等学校及び大学等との連携において、発展的な構想を構築していくことが良いと判断する。</p>	